

# 事業報告書

2017年度（平成29年度）

2017年（平成29年）4月 1日から  
2018年（平成30年）3月31日まで

滋賀県近江八幡市市井町177番地

学校法人 ヴォーリス学園

## 2017年度事業報告書

当年度事業計画書に記した次期長期計画「フロンティアプロジェクト」を、3領域から6領域に拡大し、領域ごとにプロジェクトチームを編成し、全体を統括する「推進本部」を設けました。全学的に改革の機運が熟し、具体的な動きが始まりました。

- 【Ⅰ】 中学、高校の独自性を保障しつつ、高・中をつなぐ水路を拡げる
- 【Ⅱ】 小学校、こどもセンターが協同して EduCare 事業を行なう
- 【Ⅲ】 近江サービス、ヴォーリズ倶楽部による地域創生事業
- 【Ⅳ】 施設整備（上記プロジェクトより発生するほか懸案の課題）
- 【Ⅴ】 財政計画
- 【Ⅵ】 学園史、自校教育、顕彰事業、広報、研修

4月6日、メインアリーナ竣工式、ひきつづきサブアリーナ改修工事を実施し、9月18日、アリーナ完成祝賀会を行いました。これをもって、長期計画「21世紀グランドデザイン」（2002～17年、第1～5次）が終了しました。

4月22日、道城献一学園長が逝去され、5月14日、学園葬を執行しました。8月18日理事会にて、池田健夫理事長が学園長に選任され、学園の基本理念の整理・確認のための協議を開始しました。

当年度末をもって、NPO 法人ヴォーリズ精神継承委員会（2006 設立）を解散し、当面、任意団体として「ヴォーリズアカデミー」を継続することになりました。一方、NPO 法人ヴォーリズ倶楽部（2016 設立）のスポーツ事業が開始され、学園においては、自校教育教材『近江の兄弟ヴォーリズ等』を刊行し、また『ヴォーリズ等の教育事業 100 年小史』を編纂しております。

## I. 学校法人の概要

本学校法人はイエス・キリストを模範とし、教育基本法および学校教育法に従い、学校教育を行い、自己統制力のある自由人、独立自主の創造力に富む人、知性豊かな国際人を育成することを目的としております。

この目的を達成するために設置された本学校法人ヴォーリズ学園の2017年度における概要は、以下のとおりであります。

### 1. 設置する学校等

近江兄弟社高等学校 全日制課程 普通科・国際コミュニケーション科  
近江兄弟社中学校  
近江兄弟社小学校  
近江兄弟社ひかり園  
金田東保育園（本園・分園）  
安土保育園（本園・分園）  
もりの風こども園  
そらの鳥こども園  
安土こどもの家  
守山児童クラブ室（物部・小津・玉津）

### 2. 建学の精神

「イエス・キリストを模範とする人間教育」

### 3. 沿革

- 1905年 ウィリアム・メレル・ヴォーリズ、滋賀県立商業学校英語教師となる。商業学校生徒を対象にバイブルクラス、YMCAを組織。吉田悦蔵ら同居。
- 1907年 八幡YMCA会館（現アンドリュース記念館）建設。悦蔵と共同生活。悦蔵、商業学校卒業。流暢な英語で答辞を述べた。ヴォーリズ、同校退職。八幡に留まる。
- 1909年 大津・米原に鉄道YMCA設立。
- 1917年 近江ミッション所有地を開放してプレイグラウンドとする。
- 1919年 メレル・ヴォーリズ、一柳満喜子と結婚。
- 1920年 プレイグラウンドに清友園と名付け、ヴォーリズ満喜子が園長となる。
- 1922年 清友園幼稚園開設。園長・ヴォーリズ満喜子。戦後、近江兄弟社幼稚園と改称。
- 1923年 米原シオン幼稚園開設。園長・吉田清野。42年閉鎖。  
吉田悦蔵著『近江の兄弟等』出版。跋文、賀川豊彦。
- 1930年 ヴォーリズ、Colorado College L.L.D（名誉法学博士号）授与さる。
- 1931年 ハイド一家の寄付により幼稚園舎（現ハイド記念館）、体育館（現教育会館）建設。
- 1933年 吉田悦蔵ら近江勤労女学校設立。35年、近江兄弟社女学校に改称。戦後、新制中・高等学校（近江兄弟社中・高等学校）になる。近江向上学園設立（女子従業員教育、学園長・佐藤安太郎、西村関一、吉田政次郎）。戦中、女子青年学校、戦後、近江兄弟社高等学校定時制部、78年廃部
- 1935年 幼稚園の分園事業として大林公衆浴場二階において、大林の幼児のために保健衛生を主とした生活訓練を開始、これを「大林子供の家」と称した。翌年、慈恩寺町に活動場所を移し、39年から本園の幼稚園に合流。このころまでに、堅田・今津・水口幼稚園、八日市託児所、近江家政塾、八幡英語学校、江西義塾、農村青年学校、清友園教育研究所等多様な教育事業展開。
- 1940年 近江兄弟社図書館開設（吉田悦蔵館長）。75年近江八幡市に移管。
- 1941年 ヴォーリズ帰化、一柳米来留と名のる。太平洋戦争始まる。
- 1942年 女学校長・吉田悦蔵召天。以後校長、高橋虔、檜山嘉蔵。
- 1942年 時局により向上学園閉鎖、近江兄弟社女子青年学校に（校長・村田幸一郎）。戦時中、一柳一家は軽井沢にて暮らす。メレルは宣教師らと教会・学校建築計画に余念なく、東京大学にも出講。満喜子は軽井沢幼稚園・啓明学園などの運営を委託される。戦後帰幡。
- 1947年～近江兄弟社小・中・高等学校・同定時制部を順次整備（一柳満喜子学園長）。
- 1950年 中高校舎建設、67年焼失。68年新校舎建設。2007年改築（現学園本館）。
- 1951年 学校法人近江兄弟社学園設立。初代理事長・一柳米来留、学園長・一柳満喜子。
- 1954年 一柳米来留理事長、藍綬褒章、58年近江八幡名誉市民、61年黄綬褒章受章。

- 1963年 一柳満喜子学園長、教育功労者として藍綬褒章受章。
- 1963年 「小中学校を廃止して高等学校の充実を計る」と発表したが、反対運動で中止。希望館建設、2010年改築（現希望館）。
- 1964年 財団法人近江兄弟社と経営分離。校名変更検討・保留。一柳米来留理事長召天。
- 1969年 一柳満喜子理事長・学園長召天。以後、**理事長**、尾崎政明、西川仲二、西村関一、山本肇、草間修二、西村与左衛門、山田眞、仁村昭司、道城献一、岩原佑、池田健夫。**学園長**、浦谷道三、尾崎政明、草間修二、大橋寛政、仁村昭司、道城献一、奥村直彦、大門義和、中島修、佐野安仁、道城献一、池田健夫。
- 1972年 学園創立50周年を記念して体育館建設（ヴォーリス記念体育館）。高校海外研修旅行（韓国）開始、90年より分散型に変更。
- 1974年 株式会社近江兄弟社会社整理、75年より財団補助金廃止、私学助成制度開始。
- 1978年 高等学校定時制部廃止。
- 1979年 高校新校舎建設（現西館）、4学級制に対応。
- 1980年 中学校2学級制に。84年から3学級制に。
- 1983年 中高一貫コース開始、翌年、特進コース開設。93年コース制解消。
- 1988年 三輪英樹五輪出場。以後、伊藤みき、乾友紀子出場。
- 1991年 学園創立70周年を記念して新図書棟建設（現捜信館）。
- 1992年 高校女子バレーボール部「春高バレー」に初出場。93年野球部が甲子園初出場。以後、全国大会出場クラブ多数。
- 1994年 北之庄校地取得、95年グラウンド造成（ヴォーリス記念グラウンド）。
- 1997年 文化体育交流センター建設。
- 1998年 小学校2学級制にするも2002年中断。シャロン館建設（現エクステンションセンター）
- 2000年 ハイド記念館・教育会館が有形文化財に登録される。高校新校舎建設（現東館）。6学級制に対応。
- 2001年 高校に単位制課程を設置（希望館）。05年北館建設、単位制2学級化に対応。
- 2002年 近江兄弟社総合サービス有限会社設立（スクールバス、営繕、警備）。「21世紀ランドデザイン」策定。
- 2003年 幼稚園新園舎建設。こどもセンター設立。以後、保育園（2）、同分園（2）、認定こども園（2）、学童保育所（4）を順次開設。
- 2004年 第2次ランドデザイン。06年、第3次ランドデザイン。
- 2007年 学園本館建設、5階にヴォーリス平和礼拝堂設置。中学校4学級制に。
- 2009年 「ヴォーリス展 in 近江八幡」市民実行委員会により開催。学園は全面協力。
- 2010年 第4次ランドデザイン。新希望館建設、ICC発足、翌年、国際コミュニケーション科認可。武道場建設。
- 2011年 浅小井校地取得、中高体育施設・小学校舎整備。
- 2014年 小学校を浅小井校地に移転。ヴォーリス没後50年記念行事「ヴォーリスメモリアル in 近江八幡」市民実行委員会により開催。学園は全面協力。「ヴォーリス建築を巡る韓国旅行」主催。
- 2015年 法人名を「学校法人ヴォーリス学園」に変更（理事長・池田健夫、学園長・道城献一）。第5次ランドデザイン。
- 2016年 弓道場移転・完成記念式（3月28日）  
メインアリーナ起工式（4月2日）  
そらの鳥こども園起工式（8月29日）  
第10回「いのちと平和の集い」開催（10月28日）  
2018年度近江兄弟社小学校児童募集停止発表（12月）  
そらの鳥こども園竣工式（3月26日）
- 2017年 そらの鳥こども園開園（4月1日）  
メインアリーナ竣工式（4月6日）  
サブアリーナ改修  
ヴォーリス記念アリーナグラウンドオープン祝賀会（9月18日）

4. 設置する学校の定員および生徒数の状況（2017年度私立学校調査等より）

校 園	定員数	生徒・児童・園児数
高等学校	1,085名	1,110名
中学校	456名	481名
小学校	432名	111名
こども園	565名	558名
保育園	270名	314名
学 童	395名	363名
合 計	3,203名	2,937名

5. 役員および教職員の概要等

①役員一覧（2017年5月1日現在）

理 事 長 池田健夫  
 常任理事 藤沢俊樹 小野春男 小森康三 安川千穂 奥 達夫  
 理 事 周防正史 山村 徹 亀山謙四郎 蔭山孝夫 筈井昌彦 尾賀康裕  
 管井恵子  
 監 事 佐藤弘明 小西 勉  
 評議員 47名

②教職員数（2017年度私立学校調査等より）

法人本部	理事長、学園長、事務長、専任職員5、兼任職員1					
校 園	校 長	副校長	専任教員	兼任教員	専任職員	兼任職員
高等学校	1	3	75	33	8	21
中学校	1	1	29	14	2	11
小学校	1	1	8	8	2	8
こども園	園長3	副園長3	89	0	5	35
保育園	園長2	0	3	0	62	31
学 童					7	37

II. 各校園事業報告

1. 高等学校

「少子化・人口減少」により、本県私学とりわけ中北部の私学をとりまく情勢は、公立高校が多く定員割れしていることと相まって、その厳しさを増しています。また「グローバル化」「高度技術化」の波は、求められる「人財」像を大きく変化させています。

そうした中、本校では「ターゲット2017」と題した学校改革・教育改革プロジェクトがスタートしました。自分の頭で考え、仲間と協働できる、こころざしを持ったリーダーの育成を目指す「リベラルアーツ教育」を志向する改革で、成果をあげつつあります。さらには中高連携の展望づくり「フロンティアプロジェクトI」もスタートしました。以下に、2017年度の到達点と課題を羅列します。

- (1) まず生徒募集においてはアーツサイエンスクラス155名、グローバルクラス114名、ヒューマンネイチャークラス(単位制)76名、国際コミュニケーションクラス36名、計381名と定員355名を上回る入学生を得ました。専願での入学生300名以上(306名)は今後とも必須と言えます。そのためには推薦入試での一定数の確保が必要となります。
- (2) 新クラス制度がスタートし、「アーツ・サイエンス・リーダーシップ(ASL)」、「Gチャレンジ」等の新たな実践も生まれ、全てのクラスで「オリエンテーション合宿」等の宿泊行事が行われました。また種々のエクステンションプログラムも多彩に展開されました。
- (3) 「学校目標」達成に向けた進路指導(キャリア指導)として「ヴォーリズアワー」も自主製作テキスト「The Galilee Navigation」を活用して展開されました。高大連携教育についても例年どおり取り組まれました。「小論文レッスン」等も始まりましたが、大学入試の多様化に対応するための指導・支援体制づくりについては課題が残ります。
- (4) 「国際教育ディレクター」のリードで、グローバル化に対応した教育改革にも取り組み、成果をあげました。具体的には「コロラド研修プログラム」や「南京研修プログラム」がスタートし成功したこと、海外研修旅行が多くのコースで双方向の交流となり、さらに充実した取り組みとなってきたことなどです。
- (5) 授業改革については、各教科での取り組みに加え、「学校改革委員会」を中心に、2度、3日間の一斉公開授業に取り組みました。「授業アンケート」については業者を入れて実施しました。「アクティブ・ラーニング」については、特にASCがリードするカタチで積極的に取り組まれました。
- (6) 教員の研修は、まだまだ質量とも十分とは言えませんが、英語科での「リーダー講習伝達研修」「南京プログラム」は特筆されます。「リベラルアーツ」についての研修も始まりましたが、「いのちを大切に教育」について等、取り組むべき課題は多いと言えます。
- (7) 生徒会活動やクラブ活動についても年々、活発になってきています。指導の基本方針やルールの方策・見直し・周知徹底が課題となります。地元ロータリークラブの支援を受けて活動する「インターアクトクラブ」や東北被災地への訪問などの活動も積極的に取り組まれました。
- (8) 施設・設備については、ICT環境の整備について検討され、18年度から具体化されます。今後は現有施設の有効活用を図りながら、併せて計画的な環境整備や西館の整備など将来展望の方策が課題となります。

## 2. 中学校

2017年度は「学びの質の向上」を柱に、生徒の自主的な学習の推進と授業規律の強化、教職員の授業力・指導力アップを目標にあげ、「フロンティアプロジェクトI」の検討・具体化の推進や、校務運営の責任体制の整備や学校改革の取り組み、課題別の「プロジェクト会議」の活性化、授業規律の確立とActive Learningの取り組み等を目指しました。

中高の水路を広げる取り組みとしては、高校の取り組みをできるだけ詳しく中学3年生に伝えるような機会を設けたり、教職員間でも理解を深めるための取り組みが一歩前進しました。

年間を通して行った課題別プロジェクト会議では、年度末に一定の答申がなされ次の学校改革へ反映できることとなりました。ICT活用については、機器や環境の整備がかかせない課題ではありますが、タブレットを活用した授業が少しずつ広がりを見せ、取り組みが進みました。また、英語教育では、4技能を重視した研修と取り組みが進みつつあり、GTECの導入もすすみ、生徒にも浸透し始めました。

年2回の学習・生活アンケートや保護者アンケートの結果を踏まえて、授業改善や学習指導の向上を図ることができ、当年度のアンケート結果は前年度に比べ向上しました。特に、「いじめや暴力のない集団づくりに取り組んでいる」、「子どもの問題行動などに早期に対応している」、「個々に応じた進路選択ができるようにつとめている」、「PCやプロジェクターを利用してわかりやすく資料等の提示をしている」、「清潔な環境づくりのため清掃活動につとめ、美化意識を向上するため努力している。」といった項目の評価が前年に比べて上昇しました。

生徒募集については、小学6年生の数が大きく減少する年であったため、オープンキャンパスや模擬試験の参加者数が激減しました。専願を重視する入試を行い、自己推薦S型を導入して2年目となり、A型も含め自己推薦の定員を増やして募集活動を進めました。結果としてA型の受験者数が4名増加、S型の受験者数が2名増加となりましたが、あまり大きな伸びとはなりません。兄小からの内部進学者も8名と10名を切る結果となり、大

変厳しい結果となりました。今後の募集活動のあり方の検討や教育改革を進めていく必要性を痛感いたしました。

### 3. 小学校

2018年度以降「募集停止」を決断し、建学の精神のもと、最後の最後まで責任を持って“良い教育”をすすめていくことをお約束しスタートした2017年度でした。

聖書の教えを軸に自己肯定感を育み、命を大切に、自ら生きる世界を愛する心を育てることをめざして宗教教育に取り組みました。クラスでの礼拝だけに留まらず、異学年・異年齢による礼拝や全校礼拝など形態を工夫して朝の礼拝を行いました。また、ランチや掃除や遊びなど、異学年・異年齢集団での活動を取り入れ、コミュニケーション能力を育み、隣人愛の精神を培えるようにしました。「上の学年の子どもが下の学年の子どものめんどうをよく見る。こんな学校ははじめて」という保護者の声を聞くと、ホッとします。

心配した運動会でしたが、お手紙と花の種を付けて飛ばした「エコ風船」、群馬・栃木からお手紙をいただき大いに励まされました。また、PTA種目は役員さんたちの企画・運営で大いに盛り上げていただきました。

びわ湖一周サイクリングも、保護者の皆さんやボランティアの皆さんのご協力を得て、無事全員完走を遂げ修了することができました。今後の継続を考えて、卒業生の保護者の方にボランティアのご協力を呼びかけました。

兄弟社村まつりの継続を望む保護者の声もありましたが、秋の収穫感謝週間として平日授業日に実施し、栽培した作物を秋に収穫しその食材で会食を実施しました。

5年生の短期留学は、希望者が4名に止まったため、2016年度同様フェアフィールド・インターメディアイトスクール(ニュージーランド)のホームステイプログラムにより実施しました。現地の学校での授業プログラムに参加したり、ホームステイにより異国の生活を体験することができました。今後は4・5年の希望者対象に隔年で実施することとしました。

また、学園の留学生を小学校に招いて交流する機会を持ちました。留学生の英語を聞き、英語で質問し、学習した英語の歌などを発表するなど、実践的な英語でのコミュニケーション体験の機会を持つことができました。さらに1～4年生は週2時間に、5～6年生は週3時間に英語の授業数を増やし、外国語活動の充実に努めました。

月1回土曜日を登校日して、授業時間の確保に努めました。

児童各自が自分の目標を定め、目標達成に向けて努力を積み重ねることができる一つの方策として、「漢字検定」「算数検定」「英検 Jr.検定」を各2回実施しました。

困難は続くと思いますが、「最後まで良い教育を」の約束を守り、ソフトランディングを成し遂げたいと思います。

### 4. こどもセンター

2017年4月、東近江市幼保連携型認定こども園「そらの鳥こども園」(東近江市)を開園しました。また、2019年4月開園予定の認可保育園(守山市立保育園から移管)の運営者に選ばれ、準備委員会を組織し開園に向け協議を重ねています。

安土および守山市内で運営している放課後児童クラブの児童数が激増し、そこから生じた保育における諸問題の改善策を模索、実行しました。また、学童指導員の労働条件の改善に努めました。10月、守山3学童クラブの運営事業者として指名を受けました。(2018年4月～2023年3月)

一昨年度に立ち上げたフロンティアプロジェクトⅡにおいて、小学校との連携や子育て支援、教育環境等の質の向上を課題として一定の方向性をもちました。また幼児教育100年史編纂が新たな課題として加わりました。

保育士不足が社会的問題となる中、こどもセンターにおいても人材確保に苦慮しました。

各市町において保育施設増設により保育ニーズへの量的課題は解決しましたが、保育の質(保育者の専門性)の向上が新たな課題となりました。これらをの課題を踏まえ、こどもセンターとして人材育成(保育者のスキルアップ)計画に着手しました。国が実施する保育士等の処遇改善を人材育成計画と連動させて一歩踏み出した年となりました。

#### ◆守山事業部◆

##### ○もりの風こども園

日々の保育・教育実践により、地域で必要とされる場として浸透してきました。また、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を職員が折に触れ学び、自ら考え行動するこどもの姿を大事にした実践を重ねています。

##### ○守山児童クラブ

指定管理5年間を終えた守山3学童においても丁寧な運営により地域福祉に貢献することができました。

◆近江八幡事業部◆

○こどもセンター本部

法令の改正に速やかに対応し、事務部門から各園の安定的な運営を支えました。新規事業準備、開始に際し、各規定を整備、資金調達に関する手続き等を実行しました。

○近江兄弟社ひかり園

2017年11月～3月、乳児棟園舎の一部を改修し、より安全な環境下で子ども達が生活できるよう施設整備を実施しました。園内研修を定期的実施するなど保育の質の向上に努めました。

○金田東保育園

民営化され10年、分園を開園して5年を無事迎えることができました。本園、分園とも自然に恵まれた環境を日々の保育に取り込み、『歩くことから学びが始まる』をテーマに子どもたちがより多くの経験を積み、生きる（活きる）になるよう保育内容を研究し保育の資質向上に努めました。

◆安土・能登川事業部◆

○安土保育園

安土中学職場体験、安土小学校新人教諭研修等の場として園を提供することにより地域との連携をはかることができました。また、園内の畑で野菜を栽培し、収穫やクッキングにつなげるなど食育活動も充実しました。

○安土児童クラブ

定員超過により発生した諸課題を、こどもセンターおよび行政と共有しつつ学童保育の質の向上に努めました。

○そらの鳥こども園

開園初年度のこの1年は、子どもたちが安心して園に通えるように愛着関係の構築を重点課題として保育を行いました。また保護者との信頼関係を築くため、日々のコミュニケーションも大切にしました。初年度から地域の方との交流を多く持つことができたこと、子育て支援事業に地域の多くの方の参加があったことなど、実りの多い1年となりました。

III. 財務報告（2017年度財務状況概要）

（1）資金収支計算書

学校法人の当該会計年度の諸活動に対する、すべての収入・支出の内容を明らかにするものです。

以下に、主な科目についての経年比較資料を掲示いたします。

①資金収入

（単位千円）

	2013	2014	2015	2016	2017
納付金等収入	1,168,037	1,176,337	1,225,643	1,165,875	1,238,645
手数料収入	35,732	34,649	32,151	34,345	32,247
寄付金収入	16,373	25,785	50,337	129,781	21,133
補助金収入	1,024,234	1,108,168	1,159,561	1,464,665	1,397,403
事業収入	146,620	161,588	99,346	108,304	112,018
雑収入	53,611	57,420	45,241	70,969	81,736
借入金等収入	0	39,000	147,300	883,000	17,000
前年度繰越支払資金	338,649	332,938	330,137	365,073	607,762
<b>収入の部合計</b>	<b>2,825,139</b>	<b>2,939,070</b>	<b>3,076,148</b>	<b>4,667,683</b>	<b>3,869,638</b>

②資金支出

（単位千円）

	2013	2014	2015	2016	2017
人件費支出	1,560,842	1,611,207	1,611,279	1,702,615	1,869,574
経費支出	580,243	616,220	614,434	605,785	692,645
借入金利息支出	18,274	15,356	14,154	13,404	14,189
借入金返済支出	104,728	94,991	87,948	148,918	300,763
施設関係支出	47,239	42,055	165,386	1,311,034	228,529
設備関係支出	61,647	60,038	25,366	63,098	27,621
資産運用支出	100,265	150,335	150,761	150,090	100,000
翌年度繰越支払資金	332,938	330,137	365,073	607,762	631,552
<b>支出の部合計</b>	<b>2,825,139</b>	<b>2,939,070</b>	<b>3,076,148</b>	<b>4,667,683</b>	<b>3,869,623</b>



(2) 事業活動収支計算書(2016年度から変更)

区分経理の考え方が取り入れられ、学校法人の活動内容ごとに収支状況を明らかにするものです。

(単位千円)

	2016	2017
教育活動収入	2,604,231	2,844,663
教育活動支出	2,544,065	2,821,107
教育活動収支差額	60,166	23,555
教育活動外収入	1,141	17
教育活動外支出	13,404	14,189
教育活動外収支差額	△ 12,263	△ 14,172
経常収支差額	47,903	9,382
特別収支差額	359,880	39,116
基本金組入前当年度収支差額	407,784	48,498
基本金組入額	△ 504,299	△ 619,167
当年度収支差額	△ 96,515	△ 568,134

参考資料：

高等学校法人事業活動収支差額比率及び比率マイナス法人の割合

区分	集計法人数	差額比率	マイナス法人数	割合
H24	666	6.3%	246	36.9%
H25	677	5.0%	268	39.6%
H26	681	6.6%	269	39.5%
H27	684	7.0%	281	41.1%
H28	695	4.0%	285	41.0%

※事業活動収支差額比率＝基本金組入前当年度収支差額÷事業活動収入%

※高等学校法人：高等学校を設置している法人で、大学・短期大学を設置している学校法人以外とする。